

# 令和元年度「民間試験を活用した英語4技能向上事業」

## 報告書 D高校

### 1 令和元年度（平成31年度）入学生の指導に係る全体計画 Plan

技能	1年	2年	3年
Reading	<p>(指導計画) 多読に重点を置き、中学校よりも高度な内容の英文を読むことに慣れさせる。</p> <p>(力) 基本的な構文を含む文章を、段落毎に内容を理解し、全体の概要もとらえることができる。</p>	<p>(指導計画) 1年次より長めの英文を読み、文章の要旨を捉える練習をさせる。</p> <p>(力) ある程度複雑な構文を含む文章を、段落毎に内容を理解し、全体の概要もとらえることができる。</p>	<p>(指導計画) 入試に対応できるように、様々なテーマの英文に触れさせ、論説の構造を理解しながら読む練習をさせる。</p> <p>(力) 複雑な構文を含む文章を段落毎に内容を理解し、全体の概要や段落間のつながりもとらえることができる。</p>
Listening	<p>(指導計画) 朝自習の時間を活用し、毎日の帯活動として英文を聞く機会を設ける。</p> <p>(力) 英語による講義などが、易しい言葉で繰り返しゆっくりと説明されれば理解することができる。</p>	<p>(指導計画) 1年次同様に帯活動を継続し、授業内でも Dictation や shadowing の機会を充実させる。</p> <p>(力) セカンドリスニングまででおおよその内容が理解できる。</p>	<p>(指導計画) 帯活動を継続した上で、長文から情報をスキミングしたり、要約する練習をさせる。</p> <p>(力) 講演・講義などの自然なスピードで話す説明や、質問文を理解できる。</p>
Speaking	<p>(指導計画) ALT と協力しながら、英語で自己表現をすることへの抵抗感を無くせるように、会話の機会を多く設ける。</p> <p>(力) 自分自身のことやなじみのある話題について英語で短いやりとりができる。</p>	<p>(指導計画) 本文で学んだ表現を活用しながら、英語で自己表現をする練習をさせる。</p> <p>(力) なじみのある話題について、英語で話すことができる。</p>	<p>(指導計画) 本文に関連した内容で、相手の意見を聞き、それに対する簡単な応答をする練習をさせる。</p> <p>(力) 社会的な話題について、英語で議論することができる。</p>
Writing	<p>(指導計画) 既習事項を用いて、20~30語程度の英文で、意見を述べる練習をさせる。</p> <p>(力) 自分の意見や感想を2~3文の英語で書くことができる。</p>	<p>(指導計画) 自分の意見に根拠と具体例を加えて、50~60語程度の英文で意見を述べる練習をさせる。</p> <p>(力) 自分の意見や感想、出来事の描写を5~6文程度の英語で書くことができる。</p>	<p>(指導計画) 複数の段落で構成された、説得力のある80語程度の英文を書く練習をさせる。</p> <p>(力) 自分の意見や感想を論理的に整理し、段落構成を意識して書くことができる。</p>

2 試験結果を踏まえた (1) 現状分析、(2) 重点課題、(3) 重点課題の克服に向けた実践 (指導と評価の工夫) **Do**

技能	(1) 現状分析	(2) 重点課題
	(3) ①実践 (指導の工夫)	(3) ②実践 (評価の工夫)
Reading	(1) 校内平均スコア 137.8 (全国 152、前年度生 139.8) CEFR-J A1.3 WPM60.1	(2) ・精読のように読み進める生徒が多く、情報検索問題を苦手とする生徒が多い。 ・語彙力の不足を感じている生徒が多い。
	(3) ① ・予習を前提としない授業形式で、初読の状態の内容を捉える練習をした。 ・授業ではワークシートを用意し、要約文の並び替えや T/F 問題からスタートし、アウトラインを捉えながら読む練習をした。 ・単語テストを月例で行った。	(3) ② 単語テストや単元テストを定期的に行い、定期考査以外にも学習を振り返る機会を作った。
Listening	(1) 校内平均スコア 147.0 (全国 159、前年度生 147.7) CEFR-J A1.3	(2) リスニングへの慣れも必要だが、単語の知識が不十分なので、聞き取れる部分に限りがあった。
	(3) ① ・入学時より、週 2~3 回のペースで 1 回 10 分程度のリスニング問題を継続的に実施した。 ・Reading の項目と同じだが、単語の月例テストを行った。	(3) ② 定期考査では毎回リスニング問題を出題した。
Speaking	(1) 校内平均スコア 160.5 (全国 196、前年度生データなし) CEFR-J A1.3	(2) ・speaking になると中学校レベルの文法でもままならなくなる生徒が多いので、そのレベルを繰り返し練習する必要がある。
	(3) ① ・Reading にあたる授業では、その授業内でパラグラフ 1 つを暗唱する練習をした。 ・5W1H でペアで質問をする活動を帯活動として実施した。	(3) ② パフォーマンステストとして、音読を録音してデータとして提出させて評価した。
Writing	(1) 校内平均スコア 200.6 (全国 196、前年度生 196.6) CEFR-J A2.1	(2) 自分の意見に根拠や具体例を付け加えて膨らませることができない生徒が多い。
	(3) ① 英検や GTEC といった外部試験に対する生徒の関心も高かったため、夏の補習時間などを用いて、集中的に作文の練習をした。	(3) ② ・定期考査では作文の問題を出題した。 ・ALT に授業内で添削してもらおう機会を設けた。

3 実践の検証 **Check** 及び改善案 **Act**

技能	実践の検証	改善案
Reading	① ・単語を類推したり、アウトラインの根拠を見つけながら読むことに慣れてきた。 ・結果レポートでは、情報検索問題にあたる大問で正答率が48.9%から72.0%へ向上した。	① 内容を推測する力の養成として効果はあったと考えられるが、WPBは68.8とCan-Doで掲げる80には届いてないので、予習を前提とした授業で速読の力を養う機会も確保する。
	② 月例テストがあることによって中期期的な目標を立てて取り組む生徒が増えた。	② テストに向けて努力する傾向になるので、授業中の活動で評価できるシステムを検討する。
Listening	① 結果レポートでは、全体的なスコアは大きく変わらなかったものの、要点理解問題の正答率は46.8%から63.5%へ向上したので、ある程度の長さの英文を聞くことに慣れたと考えられる。	① 授業の中では定期的に行うことができなかったので、その場で評価できる授業プランを検討する。
	② 考查では選択問題や、Dictationも出題したので、様々な形の問題に取り組むことができた。	② 朝自習の取り組みについて評価する機会を、定期考查以外にも設ける。
Speaking	① ・パラグラフを絞って暗唱させることによって、漫然と読むことを防ぎ一生懸命に取り組んでいた。 ・結果レポートでは、問いかげに対する応答の問題で5%以下だった正答率が40%まで向上した。	① 話すことが第一目標になり、発音指導が二の次になってしまいがちだった。結果レポートでも発音の項目は得点率が半減していた。中学校レベルの単語でも発音が間違っている生徒も多いので、ALTと協力しながら発音を重点にした授業も実施する。
	② データ提出なので授業を減らさずに行うことができるので、複数回おこなうことができた。テストがあるという緊張感により、音読に真剣に取り組む生徒が増えた。	② 授業内でも評価できるシステムを考える。音読テストはデータなので校務の空き時間で評価ができるが、時間が経ってしまい、生徒からフィードバックが実感しにくいという意見があった。対人でspeakingすることも大切なので、今後は織り交ぜて実施していく。
Writing	① 英検に向けた作文指導を行ったことで、パターンの中では自分の意見を述べられる生徒が増えてきた。結果レポートでも、意見の理由を述べられている生徒の割合は約98%になった。	① 和文英訳の技術を身に付ける必要がある。自由意見は述べられるものの、模擬試験などで和文英訳や指定の語からの書き出しなど、制約のあるものになると得点率が低くなるので、表現とともに練習させる。
	② 初期の段階では事前に問題を提示し、テスト勉強の一環として多くの生徒が取り組んだ。その結果、出題を当日発表にしても対応できる生徒が増えてきた。	② 定期考查の中でも、質問に対する意見論述だけではなく、様々な形式の出題をする。

